

表現の捉え方を考える

福祉の現場で 表現を見つける研修会

作品をつくることだけが、表現ではありません。
日々の何気ない行為や選択、人や環境との関わりの中にも、その人らしい表現があります。本研修では、美術と舞台芸術の実践を手がかりに、本人の側から表現を捉える視点と、それを支える人や場のあり方を考えます。

参加費：無料 定員：20名(先着順)

2026年12月9日(水)

13:00 - 16:00

- 13:10 講義1 美術部門：日常の中にある表現をどう捉えるか
14:20 講義2 舞台芸術：人が集い、動き、音を生み出す場をどう捉えるか
15:30 振り返り 講義から得た視点を自らの現場と結びつけて振り返る

講師



水上 明彦 氏(美術部門)

社会福祉法人さふらん会 さふらん生活園施設長
愛知県名古屋市にある『さふらん生活園』。「じっくり」「ま、いいか」「感性」を軸に、福祉施設で生まれるものづくりや表現、地域との協働に取り組んでいる。



米田 昌功 氏(舞台芸術)

富山県障害者芸術活動支援センターぱーと◎とやま代表
金沢美術工芸大学で日本画を学び、特別支援学校の教員を経て、NPO法人障害者アート支援工房ココベリを設立。障害のある人の表現の発掘、発表、交流を支援し、自身も美術家として活動している。

会場：石川県庁7階 0711会議室 〒920-8580 石川県金沢市鞍月1丁目1

申込方法：下記メールアドレスに参加者の氏名及び所属・電話番号を添えて申し込みください。

kakeru-ishikawa@m-aiiku.jp

主催：いしかわ文化芸術活動支援センター かける 東海・北陸ブロック障害者芸術文化活動広域支援センター